

平成27年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ (JA米)

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

品質向上は異常気象に打ち勝つ「土づくり」から

高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 初期茎数の確保
- 穂揃期の葉色確保
- 適期で適正な防除の徹底
- 水管理の徹底
- 適期収穫

より良い農業 (GAP) をめざして

次のことを常に意識し農作業等を行きましょう。

- 農薬の飛散を防止しましょう。
- 散布濃度・量を守りましょう。
- 余裕をもった計画的な作業をしましょう。
- 農業機械の点検と整備をしましょう。
- 農業機械の操作手順を確認しましょう。

収量構成の目安 (540g/10a)

収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	400
1穂着粒数(粒)	70
㎡当たり着粒数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月					
育苗期	5/15 田植	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	7/14 幼穂形成期	8/5 穂ばらみ期	登熟期	9/11 成熟期			
土づくり	耕起・代かき	健康育成	田植えは15日を中心に	溝掘りは確実に	中干しは適期に開始	草刈りの徹底	適正な穂肥	適正な乾燥調製	適期収穫	適正な乾燥調製	土づくり

作業日程の目安

5/15 田植え → 4/14 浸種 → 4/25 播種 → 4/28 播種 → 5/15 田植え → 5/15 田植え → 6/8-10 溝掘り → 6/15-20 中干し → 6/21-24 加里散布 → 7/1 一斉草刈り → 7/23 穂肥① → 7/30 穂肥② → 8/5 防除 → 8/5 出穂 → 8/5 防除① → 8/5 防除② → 9/4-6 落水 → 9/11 刈取り → 土づくり

水管理の目安

①生育初期の浅水管理
②中干しは遅れずに
③中干し後の間断かん水
④幼穂形成期後の飽水管理
⑤登熟期間の水管理
・出穂後20日間の湛水管理
・収穫5~7日前までの間断かん水

やや深水 浅水管理 溝掘り 中干し 間断かん水 飽水管理 湛水管理 収穫5~7日前まで間断かん水

時々水を入れ替える

こまめに入水する

【飽水管理の方法】
3cm程度入水後→自然減水→入水(出穂後の頃まで繰り返す)

【飽水管理の効果】
①根が常に水分吸収可能な状態を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料効果を良好にする

【中干しの目安】
足が少し沈む程度 強いヒビ 弱いヒビが入っている

長期間の深水で茎数は少なく、ひょろひょろで倒伏

【間断かん水(例)】
乾きやすい品種：1日灌水→2~3日灌水
乾きにくい品種：1日灌水→4~5日灌水

登熟向上・品質向上励行期間

きめ細かな水管理 ~初期茎数の確保~
溝掘り・中干し ~適期に遅れず~
間断かん水 ~酸素と水の供給~
飽水管理 ~急激な葉色低下を防ぐ~
出穂後20日間の湛水管理 ~穂体の活力維持~
間断かん水 ~品質の向上~

最初の曇 1回目(田植期) 2回目 3回目 県下一斉 4回目 5回目 ① ②

除草剤散布は遅れずに

■雑草防除体系 ●軟弱苗には使用を避ける。●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しはしない。

移殖当日	移殖後1日	移殖後2日	移殖後3日	移殖後4日	移殖後5日	移殖後6日	移殖後7日	移殖後8日	移殖後9日	移殖後10日	移殖後11日	移殖後12日	移殖後13日	移殖後14日	移殖後15日	移殖後16日	移殖後17日	移殖後18日	移殖後19日	移殖後20日	移殖後21日	移殖後22日	移殖後23日	移殖後24日	移殖後25日	移殖後26日	移殖後27日	移殖後28日	移殖後29日	移殖後30日
初期	メテオフロアブル 500ml/10a (移殖時・移殖直後~5日まで)	メテオ1キ口粒剤 1kg/10a (移殖時・移殖直後~5日まで)	マッシュアップ 1キ口粒剤 1kg/10a (移殖後3~5日まで)	ビッグシュアエース1キ口粒剤 1kg/10a (移殖時・移殖直後~ノビE2.0薬期まで)	サブラッドFRXフロアブル 500ml/10a (移殖直後~ノビE2.0薬期まで)	ブラストワンジャンボ 500g/10a (移殖後3日~ノビE2.0薬期まで)	アピロトップMX1キ口粒剤 500g/10a (移殖後3日~ノビE3.0薬期まで)	ブラストワン1キ口粒剤 51kg/10a (移殖後7日~ノビE2.0薬期まで)	アピロトップMX1キ口粒剤 51kg/10a (移殖後3日~12日)	中期	ファイゴールSM1キ口粒剤 1kg/10a (移殖後20~30日/ノビE3.5薬期まで)	サンバッチ1キ口粒剤 1kg/10a (移殖後20日~ノビE3.0薬期まで/但し、収穫60日前まで)	雑草が残った場合	○フォロアップ1キ口粒剤(ヒエ・広葉雑草) 1kg/10a 移殖後25日~ノビE5.0薬期まで(但し、収穫60日前まで)	○バサガン粒剤(広葉雑草) 3~4kg/10a 落水散布 移殖後15~50日(但し、収穫60日前まで)	○クリンチャー1キ口粒剤(ヒエのみ) 1.0kg/10a 移殖後7日~ノビE4.0薬期まで	1.5kg/10a 移殖後25日~ノビE5.0薬期まで(但し、収穫30日前まで)	○ヒエクリーン1キ口粒剤(ヒエのみ) 1kg/10a 移殖後15日~ノビE4.0薬期まで(但し、収穫45日前まで)	随時防除	○バサガン粒剤(広葉雑草) 3~4kg/10a 落水散布 移殖後15~50日(但し、収穫60日前まで)	○クリンチャー1キ口粒剤(ヒエのみ) 1.0kg/10a 移殖後7日~ノビE4.0薬期まで	1.5kg/10a 移殖後25日~ノビE5.0薬期まで(但し、収穫30日前まで)	○ヒエクリーン1キ口粒剤(ヒエのみ) 1kg/10a 移殖後15日~ノビE4.0薬期まで(但し、収穫45日前まで)	随時防除	○バサガン粒剤(広葉雑草) 3~4kg/10a 落水散布 移殖後15~50日(但し、収穫60日前まで)	○クリンチャー1キ口粒剤(ヒエのみ) 1.0kg/10a 移殖後7日~ノビE4.0薬期まで	1.5kg/10a 移殖後25日~ノビE5.0薬期まで(但し、収穫30日前まで)	○ヒエクリーン1キ口粒剤(ヒエのみ) 1kg/10a 移殖後15日~ノビE4.0薬期まで(但し、収穫45日前まで)	随時防除	

初期除草剤の適正使用

①代かきから田植えまでの日数を長くしすぎない。
②軟弱苗の使用や極端な浅植えを避け、適切な水管理を行う。
③葉害軽減のため、初期除草剤マッシュアップ1キ口粒剤は移殖後3日以降の使用とする。

●田植同時除草剤は、移殖と同時に施薬するため薬害を受けやすいため、上記①を守り、田植後の入水をゆるやかにを行う。

適期に適正な農薬使用で安全・安心な米づくり

■病虫害防除体系

苗箱施薬 播種時~移殖当日 緑化期~移殖当日

農薬名	ルーチンアドスピノ箱粒剤 50g/箱	Dr.オリゼフェルテラ粒剤 50g/箱
対象	いもち病、イネミズウムシ、イネドロオウムシ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、ウツカ類、フタオビコヤガ、白葉枯病	いもち病、イネミズウムシ、イネドロオウムシ、イチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ(白葉枯病)

本田防除 ●防除間隔は7日を目安に(間隔が長ならないように注意)

出穂前(随時)	穂揃期	緑化期~移殖当日
粉剤 ブラシソ(リダ)粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤 ブラシソ(リダ)フロアブル 1000倍 150g/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1000~1500倍 150g/10a (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 1000倍 150g/10a (収穫7日前まで)

●前年にいもち病、紋枯病が発生した常発地等では出穂前防除が必要です。

品質向上は「土づくり」から

■土づくり資材の施用基準

資材名	標準施用量(kg/10a)
粒状ケイカル	200
元気(新)	100
シリカロマン	100
シンキョーライTP	100

■深耕の実施
現状+3cmで
15cm以上作土層の確保

土壌に応じた適正な施肥量

■5/15植え「コシヒカリ」施肥基準 ※側条施肥の場合

土壌区分	肥効調節型肥料(基肥一発体系)		分施肥体系	
	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
砂壌土	LPss コシヒカリ1号	35	BB基肥206 または 燐加安403	32 28
	LPss コシヒカリ2号	30	BB基肥206 または 燐加安403	25 22
壤土・黒ボク	LPss コシヒカリ1号	35	BB基肥206 または 燐加安403	32 28
	LPss コシヒカリ2号	30	BB基肥206 または 燐加安403	25 22
粘質土	LPss コシヒカリ1号	35	BB基肥206 または 燐加安403	32 28
	LPss コシヒカリ2号	30	BB基肥206 または 燐加安403	25 22

生育量を確保するために、基肥量はしっかりと施用する。

◎高品位・低コスト生産に カントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!